

保育者に必要な造形能力についての研究 —アンケートから見る保育者が必要と考える造形能力についての検証—

松下 明 生

1. はじめに

保育者養成校に従事して、卒業生が研究室に帰ってくるたびに、または保育者の研修会や免許更新講習に於いても何か悩んでいることはないか質問をしている。異口同音に耳にする言葉は「絵画指導がわからない。」である。高等教育機関である保育者養成校での学びに相当な問題があって、多いに責任があるのではないだろうか。同時にどのような問題が潜んでいるのか探る必要性を感じて久しい。よって調べてみる価値があると考えた。

保育者養成校では、保育士や幼稚園教員になるための保育士資格や教員免許を取得のカリキュラムが整備されていて、単位修得をして卒業すれば皆が保育者としての専門職に就いて従事することができる。専門学校や短期大学、4年制大学等のいわゆる養成校は文部科学省告示の幼稚園教育要領や厚生労働省告示の保育所保育指針によって、それぞれ学校教育法、教育基本法と児童福祉法、児童福祉最低基準の規定に基づいて、「授業・講義」という形で学生が学ぶ環境整備がとり行われている。多くの大学では特色のある学びをアピールして、施設設備の充実した環境を広報にも使い、学生の制作した作品が楽しく学んでいる学生の姿と一緒に掲載されている。本稿では特に造形教育について、とりわけ現役保育者がわからないという「絵画指導」と「工作」を区別してアンケートによる検証を行った。保育者養成校で学ぶ新入学生である1年生と卒業間近の学生、卒業して現役で働く保育者への意識調査である。そこから見えてくる課題を探り、これからの養成校としての具体的な指針の一助になることが本稿の目的であり、そうならば幸いである。

2. 問題提起

子どもの造形活動に関して言うと、その方向性や関わり方については様々な理念や方法が混在し

ていて、目指すべき一つの解答を得ることは難しい。造形活動に関しての保育者の立ち位置として、村田(2010)は「指導によって保育者の願いがかなえられ、援助によって子どもの思いも十分に発揮される造形表現を目指すために、保育者は資質を高め、高度な専門性を身につけるようにしなければならない」と述べていて、「このような指導・援助がバランスよく機能することで、子どもは造形活動に集中し、自信を深め、意欲的な態度と自主性を伸ばすのだ」と結論を導いている。また村田は保育現場での造形指導の現状として2つの極端な例があることを示している。一つは、活動の場と材料を与えるだけで保育者による基本的な指導が全くされず、子どもにまかせきりの例で、もう一つは保育者によって表現の到達目標が設定され、そこに向かう方法も過程もあらかじめ定められた造形指導である。

子どもの造形活動に関わる保育者の立ち位置には、指導的な方法かもしくは援助的な支援なのか、諸説が語られてもいる。これは、特に造形活動のみならず様々な教育や保育の方法論として研究されてきているものの、それらの両極は、相対する物ではあるが活動の中では両立する場合もあり、ここで答えを提出することはしない。

中央教育審議会大学分科会 大学教育部会 WG 資料(2014)の文部科学省平成21-22年度先導的大学改革推進事業「短期大学における今後の役割・機能に関する調査研究」の中で、幼稚園教諭養成に必要な能力について、短期大学と幼稚園(就職先)に共通して重視する能力を抽出した質問で、必要な総合的指導力の高い順には「ピアノ技術(4.4)」「豊かな表現力(4.3)」「絵画造形能力(4.2)」「子どもの個性に対応する力(4.1)」「子どもを守り支援する力(4.1)」「運動遊びを展開する力(4.1)」「音楽遊びや伝承遊びを展開する力(4.1)」「制作指導を適切にする力(4.1)」と続く。そしてその結びには専門的知識・技術・実践力として

の到達目標の造形的部分の抜粋は「運動やリズム表現、造形表現、音楽表現を子どもに指導する基本的な考え方を理解し、基礎となる技法を身に付ける」としている。保育者の養成校はこれらを満たす人材の育成に努めなければならないということである。しかしながら、ここで「基礎となる技法を身に付ける」としても、その基礎技法も多種多様であって、各養成校や授業担当によっても、教授する内容は担当者任せといっても過言ではない。養成校の美術造形担当は、どのような授業構成をして何を授業成果として学生へ期待しての授業をしているのか、もしくはすべきなのかを各々の見識で実行している。それぞれの養成校では造形的な教授内容において必要十分な内容になっているのか、実際には何が必要なのか探ってみることにする。まず、実際に現役の保育者が造形表現の分野ではどのような悩みがあるのか提示する。

3. 現役保育者の悩み

以下は、直接的なアンケートによる回答を、記載されたままに列挙した。2016年8月に行ったアンケート回答（有効回答数57）を集計した。質問「現在、造形的な内容で悩んでいることがあれば記入して下さい。」

以下回答

- ・描けない子に対して描きたいと思わせるような指導方法
- ・子どもにどのような声掛けをするとその子の独自性が出るのか？みんなが同じような絵にならないように。
- ・絵を描く活動に入る前に、先生が描いた作品を展示しても良いのでしょうか？イメージがわからない子など、みんな真似して同じ作品になってしまいます。
- ・いつも同じことをしていて、新しいレパートリーを習得したい。
- ・子どもにどのように言葉がけをしたら意欲がわくか。
- ・やたらと箱を長くつなげるだけで満足する子供がいるのですがもっと切れ込みの入れ方で変わっていったりする事や箱ひとつで何か形にする事を覚えて欲しい。
- ・イメージを膨らませることができない子どもが

増えています。

- ・絵を描く時に個人差がありすぎて、一斉活動として取り入れていくのが難しいので、今は数人ずつ取り入れている。
- ・描き方を具体的に知らせてもいいのか？そのやり方は？
- ・子どもにどのようにイメージを持たせるのか。描き方が分からず自信のない子に、どのように楽しく描けるようにするのか、描き方が分からない子にどのように描き方を教えるのか？教えていいのか？
- ・絵が下手です。嫌いです。
- ・絵の指導の仕方。何をテーマに描いたり、作ったりすべきか。学年に合っているのか、どんな材料をどのように提供すれば良いか？
- ・毎月、平面・立体の制作があり、何を作ろうか悩む。発達年齢に合わせた作り方、材料、技法など。
- ・壁面や父の日・母の日のプレゼントなど、前年度に取り組んだ技法（あそび）は外して考えなければならない為、アイデアに困る。年長ともなると色々経験しているので・・・。
- ・すでに苦手でやろうとしない子どもには、どのような言葉掛けが必要なのか？
- ・子どもの中にイメージはあるようだが、それを上手く絵に表現出来ないと訴えてきたり、描いたものが納得いかず、泣き出したり、そこで嫌になり中断してしまう子に対する援助。
- ・0歳児でもできることを取り入れたいと思いますが、口に入れたり部屋を汚したりということがあり、取り入れられずにいます。
- ・子どもの描いた物には意味があって、それを聞き取りたいが、いつ、どのタイミングで聞くといいのか。また子どもの絵の見方、色の使い方、今どんな心の動きかなどがわからない。
- ・友だちや保育士の見本をそのまま描く子がいる。
- ・黒で埋め尽くしている子の精神状態。
- ・1歳児のお絵かきの時の声掛けや援助。
- ・私は子どもが自由に描くのでいいのですが、保護者はやはり他の子より上手く描けている、正しく描けていることを重視すること。
- ・自分自身が絵を描くこと、作ること（手が汚れ

たりすることが苦手なので)が大の苦手なので、クラスの子の指導がとても大変。自分のように絶対なってしまうので・・・。

- ・ 苦手意識を持っている子への対応。固定観念を持っている子への対応。目はこうして描くと決まっている子。

受講者のほとんどに悩みがあって、解決に至ることなく日々過ごしている状態であった。質問は「造形的な内容での悩み」というものであったが、ほとんどは「お絵かき」での悩みであることに注目されたい。今年度のアンケートのみならず、昨年、一昨年度と様々な地域で同様の質問をしているが、ほとんどが同じ内容の悩みである。幼稚園のような教育活動を重視して行われている一斉活動では、なおさら先生方は悩んでしまっているのも事実である。再掲するが、保育現場での造形指導の現状として2つの極端な例があって、一つは、活動の場と材料を与えるだけで保育者による基本的な指導が全くされず、子どもにまかせきりの例で、もう一つは保育者によって表現の到達目標が設定され、そこに向かう方法も過程もあらかじめ定められた造形指導である。つまり、各園の方針や先生方のやり方によってはますます混乱を招き、やればやるほど出来ない子や、取り組まない子の存在が目立つのである。保育者による基本的な指導がされず、子ども任せに自由に行っている園では、到達目標がないのだから保育者の悩みは前者に比べて少ないこともわかる。

4. 保育者が考える「保育者に必要な造形能力」

アンケートによる次の質問は「保育者に必要な造形能力には、それぞれどのようなことがあると考えますか? ①絵を描く能力 ②工作をする能力

③子どもの活動を支える能力」として、その後の質問には「上記①～③では必要な能力の順位をつけてみて下さい。」とした。以下が、それぞれの回答。

①「絵を描く能力」

回答【・イメージを浮かばせる声掛け。描きたいと思わせる力。・子どものイメージを広げる声掛け。・なるべく本物に近い形で描く。(虫など特に)→保育者自身が描く時。・発達障害があったり、年齢が小さかったりして理解度の低い子に生

活の流れなどを、さっと描いて伝えられたらいいと思います。・見たまま描く力。イメージして描く力。きれいな線で描く力。見た人が色々なイメージをしやすく描く能力。バランス良く描く力。美しく色付けする力。わかり易く描く能力。楽しく描く能力。物を良く見る目。想像力。楽しんで描く能力。上手・下手関係なく観察力、イメージを膨らませる能力。観察力、想像力、空間把握力。物を見る力。イメージする力。特徴をしっかりととらえる力。子どもと一緒に楽しめること。子どもが夢中になる題材の発案。思った物を描ける力。子どもに伝わりやすい真似したくなるような・・・。・イメージ力。1つの物に対して細かいパーツや動きを見逃さず観察する力。細かい観察・子どもが絵を見てイメージがわくように。見えているものをありのままに描く。子どもたちとコミュニケーションをとる手段。イメージを膨らませるもの。・イメージしやすい言葉がけ。・見て観察する力。・写實的に描く力。イラストで描く力。キャラクターを描く能力。・下手とか考えずに子どもに描きたいと思わせる力。・デッサンする力。・イメージを膨らませるための観察する力。】

②「工作をする力」

回答【・想像力。・子どもが楽しめるおもちゃを作ったり、作る過程が楽しいと感じる制作の計画立案能力。・ダイナミックさ。・材料の性質を良く知り、仕組みを理解し作るものに活かす力。創造力。・図式化、工夫、実験。・作りながらさらにイメージを膨らませることが出来る力。・物の変化の面白さを伝えるスキル。・手先の器用さ。・発想の面白さ。・器用さ。・発想力・見立てる力。・大きく作る。細かく作る。・丈夫に作る。・楽しく作る。色々な材料で作る。・表現遊びの中で必要な道具などをさっと作れたら盛り上げるスキル。・作って楽しい、あそんで楽しい、子どもの引き付けられる物を探して作ってみる能力。・作りたいと思わせる言葉かけ。・素材の特徴を知り、糊が付きやすい素材、テープが張りやすい素材などを子どもに知らせ作りやすいようにする。・年齢に合った材料を与える力。・廃材などを自由に使える力。・平面から立体をイメージする力。・色々な素材、道具、用法を知っている。・構成力・想像力・指先の細やかな動き。・色々な材料を知って何か

を創り出す力。・思いのままに楽しく作る力。・手先を使って表現する楽しさを伝えるスキル。想像イメージを物に置き換えて表現する楽しさを伝える力。・イメージ、想像力、工夫・廃材利用できる能力。・アイデアがあるかどうか、工夫ができるかどうか？器用さ？・道具を扱う能力。工夫して考える能力。・正確に作る能力。・生活体験の中で指先の発達を促すような体験をさせる能力。】

③「活動を支える能力」

回答【・活動に必要と思われる材料を予測して準備する能力。子どものイメージを共有して楽しむ力。・適切な材料をそろえる。・子どもが作りたと思う材料を揃えたり、子どもが作りたと思う雰囲気作り（声を掛け過ぎない）をする能力。・声を掛け過ぎず、見守るスキル。危険のないように（はさみ、段ボールカッター、のこぎり、トンカチ）道具の使い方を知っている。・材料などの環境設定。・材料や画材を子どもに選ばせるスキル。・子どもが必要としている道具など、的確に判断し与えるスキル。子どものイメージに沿って豊かに表現できるようにひとりひとりの動きを見きわめて援助する力。・子どもの発想を援助できる力。・イメージを膨らませる能力。・子どもの発見を見逃さず、一緒に共感共有していける力。・子どもの気持ちに気付く能力。・子どもの自発性を引き出せる言葉掛け。・子どもが想像できるように絵や写真、物語を読んだり描いたり、作りたいと思わせるようにする能力。・環境を整え活動を設定する力。・絵を描くことが楽しいと思わせるような工夫が出来ること。子どもの絵を見て、その子の思っている事を理解しようとする事。子どものイメージを広げ、より意欲を高める言葉掛けが」できる力。・発想の転換、ワクワクする言葉掛け。・子どもの表現した事を認め、意欲につなげる能力。・広い心、励まし、根気。・子どものイメージを汲み取る力。イメージを持たせる力。固定概念にとらわれない力。・子どものイメージしている事を探りながら、そのイメージを大切に崩さないように声掛けできる力。・ほめ過ぎることのない、意欲のわく声掛け。・子どもの思いに共感したり、受け止めほめてあげられる気持ちを持つこと。】

上記の自由記述の質問後に、以下の質問で必要な能力に順位をつけてもらった。質問「①絵を描く能力②工作をする能力③活動を支える能力の中で、保育者に必要な能力に必要と思う順位をつけて下さい。」

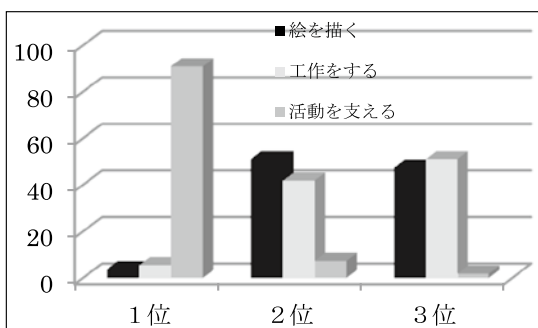


図1 保育者に必要な造形能力の意識調査（保育者）

現役保育者の回答では、「活動を支える能力」が圧倒的に必要であると答えている。その次は、「絵を描く能力」となっていて、「工作をする能力」よりも必要と感じていることがわかった。

5. 学生が考える「保育者に必要な造形能力」

現役の保育者からのデータによる分析と比較するために、次は現役の大学生による調査を紹介する。まずは大学生でも入学したばかりの1年生前期の時期、そして4年生の就職活動中、夏の時期に調査したものである。

「大学4年生（有効回答数116名）」

前項と同じく①から③について回答されたものを抽出して、その後に必要な分野の順位をつけてもらった。

①「絵を描く能力」

回答【・下手だとしても丁寧に仕上げる力。・絵が楽しいと思うこと。・形をとらえて描く力。想像力を膨らませて自分自身が楽しみながら描くこと。・今までどれだけの物を見てきたか。子どもに描いてと言われた時のために。・絵を楽しむ気持ち。・子どもが好きそうな絵が下手でも良いから描けること。・技法をしっていること。・豊かな体験、想像力。・思い浮かべたものを絵にして描く力。・思い切り描く力（遠慮しないで描くとか）。・

多くの材料を使って絵を描く経験。・多くの物を見て絵を描く経験。・保育中にイメージしたものを描けるスキル。・子どもに伝わりやすい絵を描くスキル。・壁面制作でも本を見たら写せる程度のスキル。・子どもが先生これ描いてと言われたら、すぐに描くスキル。・絵具、ペン（水性、油性）などの特色を理解して、活動に合ったものを提供できる能力。・絵を描く方法を沢山、知っておくこと。・子どものような発想力や創造性、それを絵にする表現力。・わかりやすくするために簡単に大事なところだけ描く力。・苦手意識から入らないで描いてみる。・描きたいものをパッと思いつく力。・色の塗り方、色彩力。・絵を描く時に使う物についての知識や色についての知識。自分自身の絵を描いた経験を積み重ねる。・ある程度、子どもが好む絵を描けることが最低限必要であり、その上で、子どもの発達を促すことができるよう、絵を描く技術を身に付け伝えていくこと。・観察する力と楽しんで描こうという気持ち。一生懸命に作品と向き合う。・発想力。・子どもから急に描いてといわれることが多いと思うから、手品がなくても思い出してさっと描く力。・子どもと一緒に絵を描いたり、自分自身が楽しむ能力。・素材の知識。・絵を描く時になるべく、その物に近づけるということも大切で、タコの足が5本といったような非現実な事をしてしまうと子どもに良い影響を与えない。・絵具の知識。・子どもが見やすいような絵を描く力。・美術の基礎的知識。・視覚的支援のためにも簡単な絵を描く力。・絵に対しての興味があることで、子どもの絵の良い点を見つけ伝えることができる。・子どもに間違ったイメージを与えてしまわないような絵を描く能力。・自分の絵を好きになる。・絵がぐちゃぐちゃになったとき、それをカバーする方法を知っていること。・絵を描くための材料の知識、色彩、技法の知識。子どもに合わせた絵の題を出す能力。知識のない保育者が、楽しく絵を描くことを子どもに伝えることは出来ない。自ら楽しんで絵を描くスキル。】

②「工作をする能力」

回答【・考える力。・発想力・器用さと効率の良さ。・手先の器用さ。・素早く作る能力。・道具を用途に合わせて使う能力。・工作の技法を多く知っ

ていること。・好奇心・様々な世界観に触れる行動力。・思いついた作品を身の周りの材料で作りに上げる。・イメージしたものを形にするスキル。どのような素材に何を使うか判断するスキル。・素材への理解力・リスクマネジメント・掃除する力・危ない物から目を離さない能力。・発展的な発想力・効率・自分自身が作業を楽しむ力。・絵を描く能力と同じ。・子どもが真似したい、どうやって作ったのかと興味を持たれるような作品を作る力。・技法を知って、子どもが楽しみながら取り組むことができる雰囲気を作る力。・頭の中で組み立てる能力。・環境構成のスキル。・工作を始めるきっかけ作りの能力。・きれいに丁寧にすることが必要で、適当に作ると、その程度の思い出しか残らないし、子どもにも伝わってしまう。・子どもに説明できる知識。・手先の器用さ、楽しくやる力。・安全に物を使える力。・物を何かに見立てて、物から物をイメージする力。・子どものイメージを引き出せる力。・物の素材を知っている。・危機管理ができる能力。・作品が崩れた時に、それを直す能力。・子どもが迷っている時に、ヒントを出してあげられる程度のスキル。・材料の特徴を知り、作るものにに応じて材料を選ぶことのできるスキル。・資源を無駄にしない工作の仕方、子どもたちの安全に配慮できるような指導スキル。】

③「活動を支える能力」

回答【・活動の楽しさを共感できよう、伝わるように楽しむ能力。・子どもの発達段階や興味に合った内容を計画する力。・もしもの時に備えた準備能力。・コミュニケーション能力。・子どもの気持ちを大切に、どんな作品も声をかけて褒め、受け止める能力。・作りたいものが作れる環境。・その子の良さを見つける能力。・上手にできないとき、支えたりアドバイスする力。・子どもの目線に立って、気持ちに寄り添う能力。・言葉だけではなく絵や実際の物を使って伝える力。生活の中から、子どもたちが楽しめるものを取り入れ、考える力。・どのタイミングで手助けをするかを見きわめる力。・一人一人の良い所や得意な所を伸ばす能力。・起こる問題や、子どもの行動を予測できるようにする能力。・子どもがどう支援すると新しい発見ができるのかを見究める能力。・子

どもが自らやってみたいと思えるような声掛けをしたり、場の雰囲気作り。・子ども一人一人のことを考え計画する能力。・見守る力と知識。・何が起こるかを予測して、先回りして行動できる能力。・子どもの発想力や思い描いていることに共感し、それを表現するために必要な環境を整えることができる能力。・活動したくないという子に対して対応できる能力。・今からどんな活動をするのか、分かりやすく伝える指導力。・子どもの発想力を豊かにする能力。・子どもたちの作品から心理面も読み取る力。・上手い下手と評価するのではなく、活動そのものが楽しいと思わせるような力。】

でるから、絵を描く能力は必要。・短時間でパッと描く力。・一緒に描いたり、お便りを作成する力。・似顔絵・園の飾り付け・絵本の絵をまねする。・子どもたちに絵で説明することがあると思うから、絵を描く能力。・子どもが描きそうな絵を描く能力。・キャラクターを描く能力。・発想力・自画像・色彩能力・子どもに見せた時に何の絵かわかる。・創造力・壁面・かわいいイラストを描く絵。・子どもの描けない所を少し描き足してあげる。子どもが喜んでもらえる絵・色々な絵を描くこと。・簡単な絵を描く力。・子どもに言われてすぐ描けるように。・だいたいのがさっと描ける力。・絵心・かわいいイラストを描く力。・見たものをそっくりに描ける能力。・かわいらしく描く。・カラフルな色にする能力。・絵で伝える能力。・まだ見たことない物を想像して実在するみたいに描く力。・人物の表情を描く力。・保育雑誌に載っているようなものを描く力。・個性的な絵ではなく、誰が見ても分かり親しみやすい絵を描く。】

②「工作をする能力」

回答【・きれいに折ること、切ること・ハサミで切ったりする力。・立体に描く力。・組み立てる力。ハサミを上手く使う力。・折り紙を折る力。・はさみや鉛筆の正しい持ち方で使用する力。・粘土や工作のお手本になるように。・身近な物から保育者の手で、一つの世界が生まれる過程を子どもたちと共有する能力。・手先を使える。・物の組み合わせで面白い物を作り出す力。・物を作って子どもと一緒に力を合わせることができる。・遊び心・壁紙飾りをつくる能力。・きちんと見本になるように作ること。・細かい作業が出来ないとダメ。・指先を使ってできる物。・イメージーション・立体的に考える力。・子どもの見本になれる。・子どもが喜ぶ工作。・立体を作り上げる。・折り紙や切り絵は良く使うので、作れるようにしたほうが良い。・細かい所までくわしく。・こどもに分かりやすく、見やすくすること。・子どもが作れるものかどうか判断能力。・身近なもので簡単に遊び、道具が作れること。・よりきれいに、より素早く作り上げること。・紙を破ったりする力。・子どもたちのあこがれになるくらい作れる能力。・リアル度、完成度が求められる。・技術力・身近にあ

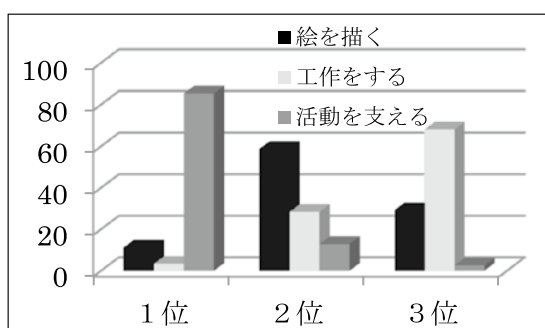


図2 保育者に必要な造形能力の意識調査 (大学4年生)

上記の図でわかるように、大学4年生では、現役保育者と同様に、圧倒的に活動を支えることが必要な能力として挙げている。また、次に支持された内容は工作的な能力よりも絵画的な能力を必要とする学生が多く現役保育者よりも支持の割合が高かったことがわかる。

「短期大学1年生 (有効回答数195名)」

前出の大学4年生と同様に同じ質問紙にて、アンケートを行った。短期大学の保育科1年生で、入学して間もない前期(7月)に実施したものが以下である。

①「絵を描く能力」

回答【・身近な物を簡潔に描く力。・子どもに描いて欲しいと言われた絵をすぐに描くことができる力。・子どもに絵でヒントを伝える。・お手本の絵を描いてあげることで子どもたちが絵を描きやすくする能力。・先生が下手だと子どもに影響が

るどんなものでも遊べる能力・廃材や身近な物を使って何でも作れる。子どもたちが作れるくらい。・いろいろなものをつくること。アレンジをすぐに思い付き、ひと手間加えられる。器用さ・子どもに教えてあげる力を身に付ける・現実化する・率先して作れること。】

③「活動を支える能力」

回答【・周りを良く見る力・手を加えるのではなく、もっとよくなるようにアシストする力・見守る力・アドバイスする力・指導力・道具などをきれいにしておく・正確にわかりやすく伝える力・観察力・子どもに教える力・クラス全員をまとめる力・危険回避、環境を支える能力。子どもが何を描いたのかメモする力・子どもの描いた物を読み取る力・教えるのではなくヒントを与える力・子どもの発達の進捗を理解し、合せた補助をできる能力・絵の補助、道具の用意・子どもが失敗しても、それを失敗だと思わせないように、手助けしてあげたり、どうすればいいかわからない子にヒントをあげる能力・子どもの考えを汲み取る・常に周りを見て行動できる能力・ほめてのばす・子どものやる気をなくさないような支援をする力・ケガをしないように注意力・折り紙やクレヨンだったりなど、子どもが好きな物を使って造形できるよう用意する力・どうしたら子どもの発想力を伸ばすことができるかわかる力・臨機応変に対応できる力・最後まで手伝うのではなく、少しだけ子どものサポートすること。をやるを引き出せる力・子どもの作品を崩すことなく、手助けできる能力・まず自分が見本になれるようにする。失敗の原因を知っておく・子どもが出来なかったら出来る

ように促す・協調性・子どもの能力を最大限引き出せる力・指示をして活動を支援する・子どもに出来ないことがあったら代わりにやる・子どもの欲求を知り、対処できる能力・指導力・常に子供を観察すること。教える力・子どもたちが自発的に工作をやりたいと思えるような物を作れる力。】

短期大学に入学したばかりの1年生の回答については、特に自由記述の欄では質問事項に直接的に関連しないような回答も目立った。①～③のそれぞれの項目についての質問の内容への理解がなされていないのではないだろうかという程の回答や、それぞれに空欄も目立っていた。保育者への夢はあるものの、入学して間もない学生にしてみれば、憧れということと、保育者になるための学びが未熟であることが伺える。次に、保育者に必要な造形能力についての順位をつける項目では、まず第1に必要とした項目は、活動を支えるという項目の選択で、現役保育者や大学4年生の回答と同じであったが、次に必要な項目としては工作をするという回答であった。これは絵を描く能力を上回っていた。先の現役保育者と大学4年生での回答と逆転した結果となっている。これはどういうことなのであろうか。入学したばかりの大学生では、保育者に必要な造形的能力についてまずは「活動を支える能力」、その次が「工作をする能力」であるのが、大学4年生では次点に必要な能力として「絵を描く能力」を選択している。現役の保育者の選択も次点が「絵を描く能力」として3番目は「工作をする能力」ということであった。子どもに関する保育や教育を学び、そして就業して時の経過とともに「絵を描く能力」の重要度が増しているということがわかる。

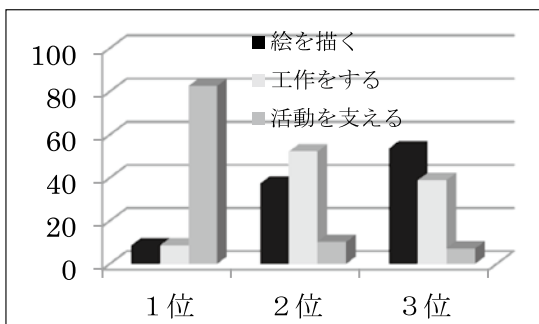


図3 保育者に必要な造形能力の意識調査(短期大学1年生)

6. 絵を描くことへの思いについて

それでは前項の「保育者に必要な造形能力」についてのそれぞれの認識を踏まえて、それらの比率で回答が出た被検者個人の背景についてもアンケートしたのでご覧頂きたい。質問「あなたは、お絵かきが好きですか？まるで囲んで下さい。」解答欄「(大好き)(好き)(どちらかと言えば好き)(普通)(どちらかと言えば苦手)(嫌い)(大嫌い)」の回答を、(大好き、好き、どちらかと言

えば好き) (普通) (どちらかと言えば嫌い、嫌い、大嫌い) の3つに分けてグラフ化したものが以下である。

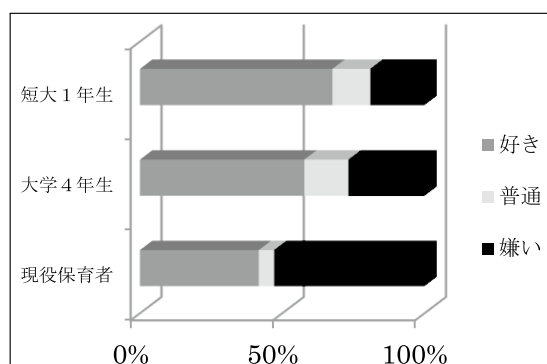


図4 あなたはお絵かきが好きですか？の意識調査

図4から推察できることは、短大1年生から年齢が上がるにつれて、お絵かきが嫌いになっていることが明らかにわかる。保育の現場では、お絵かきすることに熟練を重ねているはずの保育者自身が、大学生よりもお絵かきすることに対して苦手意識を持っているということになる。

しかしながら、前項では短大1年生、大学4年生、現役保育者の3者の「保育者に必要な造形能力」という質問の回答では、短大1年生から大学4年生、現役保育者と年齢が上がり、保育についての学びも習熟し、実際の保育経験も積んでいるにも関わらず、年と共に次第に「お絵かきをする能力」に必要性を強く感じているという事実が明らかであった。保育者自身もお絵かきに対しての苦手意識が強くなっているようである。このことから、もしかしたら新しく新任で就業している保育者よりも、主任や園長に至るほど、お絵かきには苦手意識を強く持ち、その劣等感や嫌悪感からお絵かきの能力が必要であるという考えが強いということになる。つまり、苦手になればなるほど、その必要性を強く感じるということか。しかしながら、年齢が上がって、保育経験を積み重ねて、それが何故に苦手意識が強くなるのかは疑問であり、保育者養成の現場でも注視して改善すべく研究及び保育者への啓蒙と再教育の必要性があるということである。

7. 保育者に必要な造形能力とは

厚生労働省告示による保育所保育指針や文部科学省告示による学校教育法施行規則に基づく幼稚園教育要領には、今項の「保育者に必要な造形能力」についての表記は見当たらない。例えば幼稚園教育要領では、幼稚園教育の基本の項で、「教師は幼児の基本的な活動が確保されるように幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、教師は、幼児と人やものとのかわかりが重要であることを踏まえ、物的・空間的環境を構成しなければならない。また、教師は、幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない。」とある。その中でも、「活動の場面に応じ、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない。」では、造形活動を行う設定の場合でもそのとおり適応する部分であり、そのために教師は何をするのか役割を果たす必要があることが理解できる。しかしながら、目的は明らかなものであるものの、その過程において保育者に必要とされる具体的な事柄は何一つ記載が見当たらない。例えば、「表現」の項で、子どものすることや、目標、到達されることが期待される内容については記載がわかってわかるものの、やはり保育者の必要な最低限の能力や具体的に兼ね備わっていなければならない事項は見当たらない。内容の取扱いに「遊具や用具などを整えたり、他の幼児の表現に触れられるように配慮したり、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。」とある。ここでも、子どもがどのようなことをすることが必要であるかなど具体的な事柄は明記されていても、保育者が身に付けるべき資質については記載がされていない。

保育所保育指針や幼稚園教育要領では、そのような保育者が必ず身に付けるべき技術や能力については記載がなければ、例えば各大学や養成校で使用される教科書等ではどうであろうか。いくつかの教科書や保育に関する書籍及び保育者養成に関する参考書の内容を俯瞰して見ても、子どもの造形遊びについての方法は詳しく説明されているが、その中でも保育者自身は、何がどれくらい出来れば良いのか、どれくらいの技術が必要で、具

体的に何を身に付けておかなければならないのかは書かれているものがないのが現状であった。

8. まとめ

保育者の資質に関する研究や、保育の質についての先行的な研究は最近多く見られる。その中でも表現に関しての内容や、造形的な部分に関する調査研究は少なくない。但し、今研究のように造形を「お絵かき」と「工作」とを区別して考えてみた研究はない。「工作は大丈夫だけど、お絵かき指導についてはわからない。」という声の多いことか。現役の保育者の学び直しや、幼稚園教諭更新講習、保育者研修の機会などでも最も多い相談は、「子どものお絵かきについて」の指導方法や、描かない子への対応、何よりも描き方について教えていいのかどうかさえわからないという悩みのある保育者の多いこと、驚くべき事態になっていることは周知して頂きたいところでもある。

子どものあるがままに、子どものやりたいことを受け止めて何でもできる環境は整えたけれども、そこからさあどうやって造形活動を行うのか、一斉に製作する活動については問題があるようなことを聞いてわからなくなってしまった保育者、放任してしまって結局は、子どもの描く力が、5才になっても3才児のままの発達段階で許容している園の状態等、様々な課題や問題が噴出して、保育者の造形的活動の悩みは膨れる一方である。そして、保育者自身の表現する能力、例えばここでは、絵を描くことをしなくなった保育者自身が、次第にお絵かきをすること自体を嫌いになってしまって、それが故にお絵かきをする能力が必要で

あるというアンケート結果も出ているように、保育現場での造形的活動と保育者の関わり方については放置できない程の問題が山積している。保育者は描くことを諦めてしまえばそこから嫌悪感が生じて弊害が生まれることは必至であり、幼稚園教育要領の表現の項、内容の取扱い、にある「そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。」は、決して幼児のみのことではなく、教師も子どもと一緒に共有して様々に描いたり作ったりすることや、他の子どもの表現に触れて表現を楽しむということが謳われていることを忘れてはならない。

参考・引用文献・協力者

- ・幼稚園教育要領 (2008) 〈平成20年告示〉株式会社フレーベル館
- ・保育所保育指針 (2008) 〈平成20年告示〉株式会社フレーベル館
- ・村田夕紀 (2010) 「幼児の造形指導の試み」豊かな表現を引き出すために 四天王寺大学紀要第50号、pp229-236
- ・佐藤弘毅ら (2011) 「短期大学における今後の役割・機能に関する調査研究」文部科学省先導的大学改革推進委託事業 (中央審議会大学分科会大学教育部会第3回WG)
- ・アンケート協力 (N短期大学保育科1年生有効回答数195名、N大学児童教育学科4年生有効回答数116名、2016年度幼稚園教員免許更新講習参加者有効回答数55名 於N短期大学)

A Study on Necessity about the Ability of Fine Art to Nursery Teacher

Matsushita, Akio*

本稿は保育者に必要な資質や能力の中でも、造形的な部分について何が必要とされているのかを明らかにする調査研究をまとめたものである。保育を学ぶ学生や現役の保育者からのアンケート調査により、それぞれがどのような思いで学び、そして何を思って保育職に就業しているのかについて意識を探り、保育者養成校にとっても何を教授すべきであるかを知る手掛かりとなる研究とした。保育者に必要な能力の中でも、造形能力に的を絞り、「絵を描く能力」「工作をする能力」「活動を支える能力」の3つに分けて考えた。特に造形能力を「絵を描く」と「工作」に分けて考える研究がこれまでにあまりなされていなかったことを踏まえ、今後これにつづく研究を期待する。

キーワード：保育者養成・図画工作・造形能力・保育者資質・絵画制作